

製品名: FKBP52 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe84398**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ICC,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ICC 1:50-1:200,FC 1:20-1:100
分子量	52 kDa

抗原情報

遺伝子名	FKBP52
別名	HBI; p52; Hsp56; FKBP51; FKBP52; FKBP59; PPlase;;FKBP4
遺伝子 ID	
SwissProt ID	Q02790
免疫原	ヒト FKBP4 由来の合成ペプチド

背景

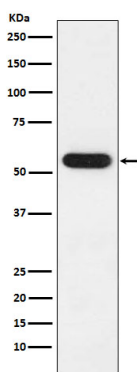
PPlase 活性およびコシャペロン活性を有するイムノフィリンタンパク質。熱ショックタンパク質 90 (HSP90) との相互作用を介して

ステロイド受容体ヘテロ複合体を形成する。細胞質と核区画間のステロイドホルモン受容体のヘテロオリゴマー形態の細胞内輸送に関与している可能性がある。イソメラーゼ活性は TRPC1 チャンネルの開口を制御することで神経細胞の成長円錐を制御する。また、MAPT/TAU の微小管形成促進能を阻害することで、微小管ダイナミクスの調節因子としても作用する。ミトコンドリアにおける酸化ストレスに対する保護的役割を担う可能性がある。

研究分野

-

画像データ



MCF7 細胞溶解物中の FKBP52 発現のウェスタン ブロット解析。